



市民が主役のまちづくりを 布目ゆきお市政直行便

2015年8月22日
NO.42

〔編集・発行〕
長野市議会議員・布目裕喜雄
布目ゆきお後援会事務所
長野市安茂里小市 2-5-1 ☎217-8909

幸せ実感できるまちづくりを発信 任期最後の質問…認知症施策の推進を質す

今任期最後となる市議会定例会は、6億2千万円余の一般会計補正予算をはじめとする全ての議案を可決し、8月17日に閉会しました。

この議会では、3期目最後の一般質問を行い、認知症施策の推進や公共施設の見直しの課題を取り上げました。【写真：8月7日に行った一般質問の場面より】

市民の皆さんが幸せを実感できるまちづくりをめざし、引き続き頑張る所存です。



■高齢者の7人に1人が認知症

我が国の認知症の人の数は約462万人、65歳以上の高齢者の約7人に1人と推計され、軽度認知障害と推計される約400万人と合わせると、65歳以上高齢者の約4人に1人が認知症の人またはその予備軍ともいわれています。既に高齢者の7人に1人が認知症であるにもかかわらず、地域の介護サービスが追いつかず、深刻な徘徊事故も問題になっています。

■GPS機能付き携帯電話等の購入助成利用者は18人、認知度は9.9%

市では徘徊高齢者家族支援サービス助成事業として、GPS機能付き携帯電話等の購入や利用料金の一部を助成していますが、6月末現在の利用者はわずか18人。この助成事業を知っている高齢者は9.99%という状況です。課題が浮き彫りとなる数字です。

市では、「機器の購入にあたり分割払いを対象から除外していることや事業の周知が行き届いていないことが課題」とします。

■住み慣れた場所で住み続けるために

市民一人ひとりが、認知症を正しく理解し、だれもが安心して暮らせるようみんなで支えあい、住み慣れた場所で生活が続けられることが大切です。

私は、重大な徘徊事故を未然に防ぎ、行方不明高齢者の早期発見につなげるため、この助成事業を利用しやすいものに見直すとともに、十分な周知を図り利用者が拡大するよう強く求めました。

■徘徊高齢者等SOSネットワークの早期立ち上げを提案

認知症高齢者の行方不明が社会問題化する中、警察や消防だけでなく、企業や団体の協力のもと、市から伝達される徘徊情報により行方不明者を捜索し早期発見・保護につなげるシステムが徘徊高齢者等SOSネットワークです。

このSOSネットワークの早期立ち上げと地域を挙げての捜索模擬訓練の実施を迫りました。

■「先進地の事例を参考に実施に向け検討中」と答弁…早期実現を求める

市では行方不明の高齢者の早期発見のため、昨年6月から、消防団員やキャラバン・メイトなど登録された約140人に行方不明者情報のメール配信を行ってはいますが、郵便局や宅配業者、バス・鉄道・タクシー事業者など官民連携による情報共有と早期発見のシステムには至っていません。市は、「徘徊見守りSOSネットワークの構築は国も推奨しており、実施に向け現在検討中」、「捜索模擬訓練はSOSネットワーク構築後の課題として検討していく」と答弁しました。

早期実現を強く求めています。

公共施設、20年間で20%削減する指針を策定

市民とともにつくる公共施設最配置計画を提案

市は、公共施設白書を踏まえ、「将来世代に負担を先送りすることなく、よりよい資産を次世代に引き継ぐ」ことを基本理念とする「公共施設マネジメント指針」を策定し、今後20年間で公共施設の総延床面積で20%削減することを打ち出しました。

◆聖域なき20%削減…質の高い住民サービス維持が課題

聖域なき20%縮減とされながら、1割を占める五輪施設が先送りとされている点や、施設分類ごとの見直しの優先度・重要度の考え方が希薄な点等、課題は残されていますが、公共施設の見直しは避けられない重要な問題です。しかし、大事なことは、公共施設を縮減・見直してもなお、市民・住民の理解と合意のもとに質の高い住民サービスが如何に維持されるのかということにあります。

◆市民とともにつくる再配置計画を

来年度中を目途に、「公共施設再配置計画」、「長寿命化計画」など個々の施設の見直し計画を策定することになります。

公共施設の見直しは、市民生活に直結する問題であるだけに、市民の共通認識と理解が不可欠です。

◆「公共施設見直し市民委員会」を提案

施設の複合化・多機能化・集約化など、地域コミュニティの核となる施設の再構築に向けては、地域ごとに市民参画による「(仮称)公共施設見直し市民委員会」を設置するなど、市民参画と市民が協議し決定できる仕組みづくりを提案、市長に質しました。

◆市長、「最終的な意思決定は行政の責任、市民参加の手法はさらに検討」

市長は、「公共施設の現状と課題を市民と共通認識とし、一緒に議論していくことは重要だが、最終的な意思決定は行政の責任」と述べ、「例えば、住民自治協議会との協議など、地域の特色や課題に応じた市民参加の手法を検討する」と答弁するに止まりました。

個々の施設の統廃合について、市民の声が十分に反映されるよう、さらに提案を続けたいと思います。



8月15日、「非戦の鐘」に参加！

地元安茂里の称名寺(浄土真宗本願寺派)で、平和を願う皆さんと一緒に「非戦の鐘」を撞きました。

違憲の「戦争法案」は廃案に！

9月市議会定例会には、6月定例会に続き、「戦争法案」の廃案や撤回を求める請願が提出されましたが、すべて賛成少数で否決されてしまいました。悔しい！

私は、「戦争法案」の廃案を求める請願の否決に対し反対討



論を行い、戦後70年の節目にあたり、「戦」の「後」が限りなく続くこと、「戦」の「前」の時代にしないこと、日本という国が「非戦の国」であり続けることを訴えました。【詳しくはネット検索、[布目ゆきおブログ](#)をご参照ください】

編集後記 残暑お見舞い申し上げます。任期最後の市議会が閉会し、いよいよ9月の改選です。街中には公営掲示板が掲出されました。幸せ実感できる市政の実現をめざし、初心に返り全力投球で臨みます。(布)

長野市の将来を見つめ、市民の幸せを願って行動します。

後援会、広がる支持の輪をさらに広げてください。